



保健室便り

No.116 2021年6月

新型コロナウイルスについて

現在、日本で使用されている新型コロナウイルスワクチンはファイザー製とモデルナ製のmRNAというワクチンです。

mRNA ワクチンは、新型コロナウイルスのスパイクタンパク質というトゲの部分（人の細胞に侵入して感染させる部分）だけを作る設計図を脂質コーティングして、体内に投与します。

ワクチンが接種されるとmRNA は注射部位近くのマクロファージ（白血球の一種）に取り込まれ、細胞内のリボソームで設計図を読み取り、スパイクタンパク質だけを作ります。このスパイクタンパク質がマクロファージの表面に現れると私たちの身体は異物と認識し、攻撃する準備のため、抗体を作ります。

体内に取り込まれたmRNA は、数日で分解され、作られたスパイクタンパク質も接種後 2 週間でなくなると言われています。

副反応が出てくるのは、この 2 週間の間だと考えられます。多くの人は接種後翌日に接種部位の痛み、腫れ、全身症状として関節痛、頭痛、発熱などの副反応が出るのが多く 2~3 日で症状は消失します。

※副反応は年齢や性別により異なります。年齢が高いほど発熱やだるさなどの全身症状の出現率は低くなります。男性より女性のほうが出現率は少し高いようですが大差ありません。

メーカー	ファイザー製 (mRNA ワクチン)	モデルナ製 (mRNA ワクチン)
接種方法	筋肉注射 3 週間隔で 2 回	筋肉注射 4 週間隔で 2 回
発症予防効果	95%	94%
副反応	接種部位の疼痛、腫れ、頭痛、関節痛、発熱等	
接種対象者	16 才以上 (米国 12 才以上)	18 才以上

➤ いずれのワクチンも十分な免疫を期待できるのは、2 回接種を完了した 2 週間後です。

現時点では感染予防効果^{※1}は明らかではないので、ワクチン接種にかかわらず、適切な感染防止対策を行う必要があります。

※1 感染予防効果は臨床試験では確認困難です。特に発症しない感染者が多い新型コロナウイルスでは実証する事はほぼ不可能といわれています。

➤ 変異株へのワクチンの効果について

ウイルスは絶えず変異を繰り返していますが、ファイザーやモデルナ社のワクチンは様々な変異スパイクタンパク質に対し抗体が中和する（感染を防ぐ）ことが確認されていて発症を予防する効果は期待できます。

ベータ株、ガンマ株に対しても中和活性は認められますが少し低下すると報告されています。以下のサイトより今後も更新される情報を参考にして下さい。

厚生労働省「新型コロナウイルスについて」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html

厚生労働省「新型コロナウイルス Q&A」

<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/>

※お願い：体質や持病がありワクチンを接種できない人もいます。また接種を受ける事は強制ではありません。接種をしていない人に対して強要や差別、不利益な取り扱いを行うことがないよう皆様のご理解とご協力をお願いします。

